

舌口唇運動機能低下とその評価

- 全身疾患や加齢変化による、脳・神経の機能低下や口腔周囲筋の機能低下



- 舌口唇の運動機能が低下し、摂食行動、栄養、生活機能、およびQOLなどに影響を及ぼす可能性がある状態



- 舌口唇の運動機能を、速度や巧緻性により評価(オーラルディアドコキネシス)

オーラルディアドコキネシス

Oral diadochokinesis

- 5秒間で /pa//ta//ka/をそれぞれ繰り返し発音させ、自動計測器(健口くんハンディ、竹井機器工業)を用いて、1秒当たりのそれぞれの音節の発音回数を計測する



舌口唇運動機能低下の基準

/pa//ta//ka/いずれかの 1 秒当たりの回数が、**6 回**
未満

4720 名の高齢者を対象とした大規模調査

健康群 766 名の値:

女性:/pa/ 6.3 ± 0.9 回、/ta/ 6.2 ± 0.9 回、/ka/ 5.9 ± 0.8 回

男性:/pa/ 6.2 ± 0.9 回、/ta/ 6.1 ± 0.9 回、/ka/ 5.6 ± 1.0 回

フレイル群 535 名の値:

女性:/pa/ 5.6 ± 1.0 回、/ta/ 5.6 ± 1.0 回、/ka/ 5.2 ± 1.1 回

男性:/pa/ 5.6 ± 1.0 回、/ta/ 5.5 ± 1.0 回、/ka/ 5.0 ± 1.0 回